本シートは、学校防災計画の初動対応部分を抜き出し、発災時に一目で分かるものとして掲示し活用するためのものです。

【大判印刷用】もえぎ野中学校における初動対応シート

※大判プリントし、職員室・昇降口・体育館等に掲示してください。

場面		対象	地震発生	安全確保	1次避難	安全確認	二次災害	2次避難	安全確認	情報収集 被害状況把握	保護者へ連絡・ 引き渡し	防災拠点機能 ＜学校に留まっていられる場合＞
大地震発生・大津波警報発表	課業中	校長・副校長	地震発生	◎緊急放送で安全確保の指示 ◎テレビ・ラジオ等で地震・津波警報等の確認と最新情報を入手	地震が収まったら 1次避難場所での避難が危険な場合は、 統轄本部設置 ◎校長は、校長室（職員室）で指揮 ・緊急放送で全校避難を指示 ◎副校長は、すぐに校庭へ ※二次災害なければ、副校長は職員室で情報係とともに情報収集と発信。	◎人数と安否確認 児童生徒→担任→学年主任→＊副校長→校長 ・周囲の被害状況の把握 ・二次避難の準備・計画 ・負傷者の確認と手当 ・児童生徒の不安緩和 ・病院等の医療機関との連携 *＜1次避難状況を学校教育事務所へ報告＞（1次報告：様式2　FAX等）*	校舎倒壊・火災発生等	1次避難を省略した場合は、2次避難場所で1次避難で行うべきことを実施する。 ◎安全な場所への避難指示 ・被害状況確認と最新情報を入手 2次避難場所を記載 もえぎ野小学校（広域避難所）	◎人数と安否確認 児童生徒→担任→学年主任→＊副校長→校長 ・周囲の被害状況の把握 ・負傷者の確認と手当て ・児童生徒の不安緩和 ・病院等の医療機関との連携	◎学校教育事務所へ連絡 （第1次報告に変更がある場合） ◎区災害対策本部へ連絡 ※FAXの活用 メール配信・ホームページ・（ツイッター）等を活用した	◎統轄本部で情報収集 ・学校周辺の被害状況 ・公共交通機関等の運行状況 ・通信手段の開通状況 ・保護者への連絡方法の確認 ・学区小学校との連携 保護者へ連絡 市域のいずれかで震度5強以上を観測した場合は	◎区災害対策本部との連携 ◎学校教育事務所との連携 ◎防災拠点運営の協力 ※帰宅困難者避難所になった場合については検討中。
		教職員		◎的確な指示 ・「頭部をまもれ」 ・「机の下にもぐれ」 ・「机の脚をもて」 ・「安心するような声かけ」	◎校庭へ避難誘導 ・名簿・引き渡しカード・ホイッスル等の携帯 ・配慮を要する子どもへの対応 ・トイレ、特別教室等に児童生徒が残っていないか確認	災害対策本部設置 救出・救急医療班 活動開始 消火・安全点検班 活動開始 ◎施設被害状況の把握 ◎危険箇所の立入禁止措置		◎予め定めた場所へ避難誘導 ◎的確な情報を与え、落ち着くように指示	救出・救急医療班 活動継続 消火・安全点検班 活動継続	◎役割分担に従って行動 ・学校、地域の被害状況把握（安全な場合は通学路等も・・・） ・ライフライン、公共交通機関の状況 ・負傷者への対応 ・危険箇所の確認と立入禁止の表示 ・不安を訴えている子どもへの対応（養護教諭中心に）	◎引き渡しの手順 ・メール配信：安否確認メールによる引き取り可否確認 連絡とれず、または、危険で保護者の引取が困難な場合 留め置き	・待避場所の確保 ・食糧の確保 ・保護者への連絡
		児童生徒		◎揺れがおさまるのを待つ ・机の下にもぐり、落下物から身を守る	◎落ち着いて移動 ・頭部を保護しながら上履きのまま移動 ◎「おかしも」の約束 おさない かけない しゃべらない もどらない	◎負傷者がいる場合は助け合う ・勝手な行動をとらない ・私語をつつしむ		◎落ち着いて移動 ・頭部を保護しながら上履きのまま移動 ・教員の指示に従い、急いで集合場所へ移動	◎負傷者がいる場合は助け合う ・勝手な行動をとらない ・私語をつつしむ	◎避難場所で静かに待つ ◎指示に従って、帰宅準備を行う	◎下校 ・保護者への引き渡し ・留め置き	・待避場所の確保 ・食糧の確保 ・保護者への連絡
		各学校の特記事項		◎教室外の場合倒壊の危険のないスペースを確保する	◎教室外の場合人員点呼・負傷者確認後一次避難場所へ	◎クラスごとに集合し、担任から指示		◎二次避難場所の状況確認後、原則としてクラスごとにまとまって避難	◎クラスごとの人員確認	◎地域ごとの帰宅準備	◎メール配信（掲示板）にて帰宅・留め置き等の情報発信及び小学校との連携 （原則通りの留め置きの場合、混乱を避けるため、引取依頼のメール配信はしない）	◎区災害対策本部との連携・自治会と連携 ◎学校教育事務所との連携 ◎防災拠点医療拠点運営の協力